

単為結果性品種 ‘PC お竜’ の生育・収量特性

表1 開花・着果の様相および平均果重^z

品種 ^y	開花数 (個/㎡)	収穫果数 (個/㎡)	可販果数 (個/㎡)	収穫果率 ^x (%)	可販果率 ^w (%)	平均果重 ^v (%)
PCお竜	253.7	250.7	245.2	98.9	97.8	97.0
土佐鷹	362.6	292.2	271.1	80.4	92.6	90.4
百分率 ^u	70	86	90	123	106	107

^z 養液栽培で、うね幅150cm、株間30cm、1条植え2本V字仕立てとし、1芽切り戻しで栽培した。栽培期間中に収穫または落花した全花を調査し、収穫した果実はJA高知県出荷規格によりA品とB品を可販果とした

^y 台木にエンペラドールを使用した ^x 収穫果数/開花数 ^w 可販果数/収穫果数

^v 可販果として収穫した全果実の平均 ^u ‘土佐鷹’を100とした場合の‘PCお竜’の割合

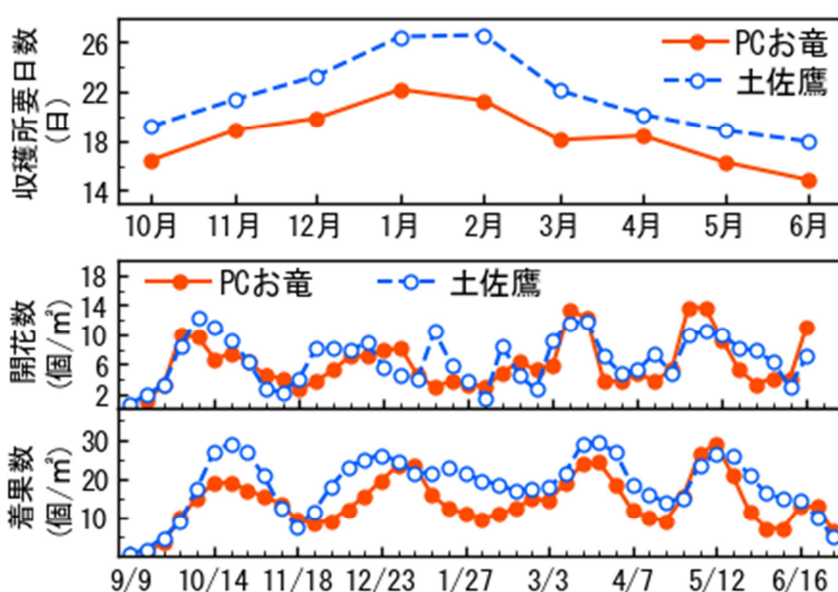


図1 収穫所要日数および開花数・着果数の推移

注) 収穫所要日数は月の平均値、開花数は週の合計値、着果数は週の平均値を示す

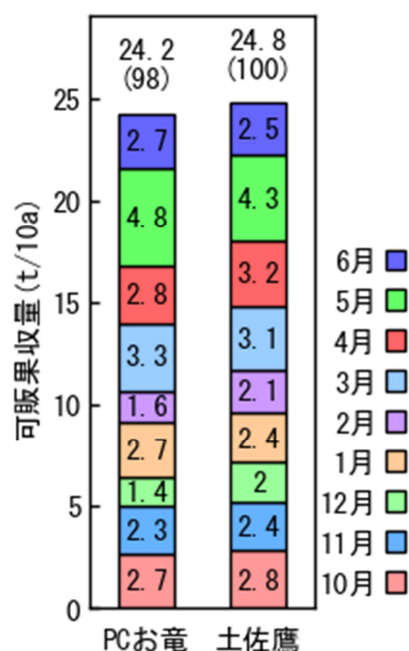


図2 月別の可販果収量

高知県の主要品目であるナスでは、単為結果性品種‘PCお竜’が急速に普及していますが、その品種特性についてはこれまで明らかにされていません。そこで、‘PCお竜’の生育・収量特性を調査しました。

‘PCお竜’は‘土佐鷹’に比べて、開花数は30%減と著しく少なかったものの、収穫果率は98.9%と極めて高く、可販果数は10%減に留まりました。また、収穫所要日数は作期を通じ1.7～5.3日短く、果実肥大性に優れていることが明らかになりました(表1、図1)。一方で、開花数が少ないことから、着果数の谷の期間が長引く傾向が見られ、12月～3月頃にかけて月別の収量の山

谷が大きくなる傾向が見られました(図1、2)。「PCお竜」は、わき芽の吹きが遅いため、1芽切り戻しで栽培した場合には、収量の山谷が大きくなったと考えられます。そのため、厳寒期に2芽切り戻しを行い、側枝を増やして着果・収量を安定させる試みを行っている生産者もいます。

今後は、作業負担が過度に増えず、安定生産につながる、整枝方法を検討する予定です。

(先端生産システム担当 永尾航洋

TEL:088-863-4918)